

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸施策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。第5次長期計画における各事業を円滑に遂行するべく、各キャンパスおよび設置学部の特長、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点にもとづき整備をおこなった。

- ①本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ②学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りをめざす。
- ⑤大学構成員の意見を聞きながら施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティの向上に努める。
- ⑥すべての施設のバリアフリー化をめざす等、障がい者にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦省エネルギーをはじめとする環境に優しい大学創りに

努める。

- ⑧教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

深草学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

●衛生設備の充実

深草学舎の感染症予防対策（4ヵ年計画の3年目）として、各洗面所の自動水栓化およびハンドドライヤー設置工事を実施し、衛生環境の向上に取り組んだ。

また、自動水栓化により節水効果を高めることで、水使用量の低減を図った。

●中央監視システムの整備

2010年度に実施した中央監視システム更新とBEMS（Building Energy Management System）導入に引き続き、2011年度は、各建物に端末伝送装置を設置し、エネルギー使用の遠隔管理体制を整備した。本工事の実施により、中央監視機能を向上させ、エネルギー管理を効率化することで、省エネルギー化を図り、エコキャンパスの推進に努めた。



● その他施設の整備

6号館の省エネルギー対策として、窓ガラス・ガラス扉に遮熱フィルムを貼り、紫外線の進入を抑えることで、快適な室内環境を整備するとともに、エネルギー消費を抑制した。また、老朽化した6号館エレベータを更新し安全性を確保する等、各種営繕工事を行い、安全で快適な環境を整備した。

● 近隣不動産の取得

将来の教学展開に資するスペースの確保、および課外活動施設の充実を図るべく、2011年6月には深草平田町の土地(2,606.94㎡)を取得し、また、12月には紫光館隣接不動産<土地(3,639.57㎡)、建物(1,781.13㎡)>を取得した。加えて、留学生寮整備に向けた近隣不動産については、土地(1,249.79㎡)に建物(延床面積3,163.63㎡)を建築して取得することを決定した。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

大宮学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

● 施設設備の更新

南翼南側の屋外掲示板に屋根を設けるとともに、本館・東翼の立て看板設置場所を整備し、キャンパス内のサインの充実を図り、学生・学外者に対し利用しやすい環境を整備した。また、経年劣化している西翼の高圧受電盤を更新し、安全で安定した電力を供給するための環境を整備した。

● 衛生設備の充実

大宮学舎の感染症予防対策(4ヵ年計画の3年目)として、各洗面所の自動水栓化およびハンドドライヤー設置工事を実施し、衛生環境の向上に取り組んだ。また、自動水栓化により節水効果を高めることで、水使用量の低減を図った。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

瀬田学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

● 省エネルギー対策工事<3年目>

4号館の照明器具を省エネルギー対応の器具に改修し、省エネルギーの推進を図った。

● 食堂・喫茶厨房機器の整備<2年目>

瀬田学舎厚生施設(青雲館・青志館・RECホール)の食堂・喫茶厨房機器を更新し、厚生施設の充実を図った。

● 理工学部・理工学研究科の教育研究装置及び特別研究設備の整備

理工学部・理工学研究科の教育・研究に使用される「インタラクティブ・アンビエント・メディア研究設備(体験型メディア空間実験装置)」を調達・整備した。

● 合宿施設的环境整備工事の実施

本学学生団体の合宿や、ゼミにおける教育研究活動に使用している「龍谷荘(瀬田)」の設備を更新し、合宿施設の充実を図った。

4 その他の施設・設備・備品等の整備(各学舎以外の施設)

● セミナーハウスともいき外壁改修工事

経年劣化しているセミナーハウスともいきの外壁を補修するとともに、必要な防水対策工事を行い、施設利用環境保全を図った。

2 情報システム関係について

2010年度より開発を開始した次期基幹事務システムは、2011年10月より法人系システムの一部の稼働をはじめ、順次サービス提供を開始した。また、2012年度からは、学事系(教学系)システムの稼働開始を予定している。

教育系メールシステムについてはリプレースを行い2011年10月1日よりクラウドサービスの提供を開始した。これにより学生一人当たりのメール保存容量は25GBとなり、利便性の向上を図ることができた。

また、更新時期を迎えていた証明書自動発行機についてはリプレースを行い2012年1月からサービス提供を開始した。この発行機では、学生証に追加された電子マネー機能が利用でき、キャッシュレスで証明書等の購入ができるようになった。

さらに、学生証については非接触型ICカードに変更し、2011年4月より利用を開始した。このICカードは、個人認証等によるセキュリティ対策として有効であるため、電子マネー機能を追加しキャッシュレス化を推進している。今後は、入館システムや図書館利用証等の活用が検討課題である。

1 基幹ネットワークの整備

● クラウドサービスの導入

教育系メールシステムを更新し「Active!mail」から「Gmail」に変更した。メールの保存容量が200MBから25GBとなり、全てのメールを削除することなく利用できる等、利便性を大きく向上させることができた。コミュニケーションと情報共有の活性化のツールとして、Gmail以外のCalendarやDocumentなどの諸機能については、2012年度以降に利用を開始する予定としている。

● テレビ会議システムの構築・更新

深草・大宮・瀬田学舎に導入した大型高精細タイプのテ

レビ会議システムは、2011年度から本格的に運用を開始した。本システムは安定的に稼働しており、教育、研究及び業務等の打ち合わせや会議で日常的に利用されている。

2 情報教育環境の整備

●教室マルチメディア設備整備の新たな整備方針の策定

従来は、大・中規模普通教室を中心にマルチメディア設備整備を進めてきた。近年、利用目的、利用者の要望、授業方法等が多様化してきていることから、さらなる情報教育環境の充実に資することを目的として、新たな整備方針を定めた。

●情報教育リテラシー支援プログラムの充実

高校において教科「情報」が設けられて5年が経過したことや、時代に即応した講習内容を提供するため、メディア教育委員会のもとに検討ワーキンググループを設置し、情報教育リテラシー支援プログラムについて検討をおこなった。具体的には、情報教育リテラシー支援プログラムのひとつである「新入生向けマナー講習」に関する実施内容等を検討し、その実施方法等については、改めてメディア教育委員会等で審議検討することとなった。

3 事務システムの整備

●基幹事務システムのリプレイス

2011年度は、2010年度に実施したシステム要件定義に基

づいて開発・検証を進めてきた。これを踏まえ、2011年度後期には研究業績システム及び法人系システムのうち予算編成機能が稼働、年明けには人事給与システムを試行稼働した。2012年度には、法人系システムの予算執行機能等及び学事系（教学系）システムが稼働予定である。

●証明書自動発行機リプレイス

2012年1月より、新証明書自動発行機の稼働を始めた。今回のリプレイスでは、瀬田学舎の台数を増やしたこと（計4台とした）や、学生証ICカード付帯の電子マネーで決済できるようにする等、学生の利便性向上を図った。

